

# 地理Bシラバス

地理B(前半)	担当者	
	単位数	2単位
	学科・学年・学級	普通科2年1組～8組

## 1. 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然環境、資源・産業、都市・村落、生活文化等を通して現代世界の特色を探る。</li> <li>2. 現代の世界を地域（市町村規模、国家規模、州・大陸規模）ごとに学ぶ。</li> <li>3. 現代世界の諸課題（国家間、日本の近隣諸国、環境・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題、民族・領土問題）を理解する。</li> <li>4. 地理という学習（教科）が世界を捉えるうえで重要であることを理解するとともに、世界の諸問題に対して考え、自分の意見を言える力を身につける。</li> </ol>
使用教科書 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帝国書院『新詳地理B』</li> <li>・地図帳「新詳高等地図」（帝国書院）</li> <li>・『最新地理図表 GEO』</li> </ul>

## 2. 学習計画及び評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらいと目標
1 学 期	4	5	I部 さまざまな 地図と地理的技能  1章 現代世界の 地図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界の地図について、さまざまな時代や種類の地図の読図などの活動を通して、各時代の人々の世界観をとらえ、現代の地図や身近な地図の有用性に気付く。</li> <li>・地図の種類とその利用について、球体としての地球の特徴を捉え、球体を地図に表現した場合の特性や、時差の求め方を通して、現代世界の地理的事象を捉える地理的技能を身につける。</li> <li>・地理情報の地図化について、地理情報の統計地図化などの活動を通して、地図の有用性に付き、現代世界の地理的事象を捉える地理的技能を身につける。</li> </ul>
	5	8	2章 地図の活用 と地域調査 II部 現代世界の 系統  地理的考察 1章 自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図の活用と地域調査について、直接的に調査できる地域を地形図などの地図を活用して多面的・多角的に調査し、生活圏の地域的特色を捉える地理的技能を身につける。</li> <li>・世界の地形について、営力的な視点で分類し、大地形、小地形、その他の地形の分布や成因を考察するとともに、災害と恩恵など人間生活との関わりを考察する。</li> </ul>
	6	9		<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の気候について、気候要素と気候因子の関係から、その成り立ちを考察し、それぞれの気候区の特徴と農業など人間生活への影響を考察する。</li> </ul>
	7	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の自然の特徴と人々の生活について、地形や気候の特徴と、これによる自然災害の特徴を理解するとともに、防災のあり方を考察する。</li> <li>・環境問題について、世界の環境問題の成因や特徴と対策、地域的な分布を大観し、さまざまな環境問題のうちから地球温暖化、森林破壊、砂漠化について、事例を考察する。日本の環境問題の特徴と対策について考察する。</li> </ul>

2 学 期	9	8	2章 資源と産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業の発達と変化について、自然環境との関わりやグローバル化の視点から考察する。</li> <li>世界の農林水産業について、農業地域区分や、現代世界の農林水産業の現状と課題、及び世界のなかでの日本の農林水産業の課題を考察する。</li> <li>食料問題について、世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し、発展途上国、先進国、日本についての事例を考察する。</li> </ul>
	10	10		<ul style="list-style-type: none"> <li>世界のエネルギー・鉱産資源について、エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察する。</li> <li>資源・エネルギー問題について、現代世界の資源・エネルギー問題を大観し、世界の資源をめぐる問題、エネルギー生産や消費の抱える課題、日本の資源・エネルギー問題を考察する。</li> <li>世界の工業について、工業の発達や立地、世界の工業地域や、世界の工業の現状と課題、及び日本の工業の課題を考察する。</li> </ul>
	11	10	3章 人口・村落・都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3次産業について、現代世界の第3次産業の発展と、世界と日本の観光業の特色を考察する。</li> <li>世界を結ぶ交通・通信について、交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。</li> <li>現代世界の貿易と経済圏について、世界貿易や経済圏の現状と課題や、世界のなかでの日本の貿易や経済の現状と課題を考察する。</li> <li>世界の人口について、世界人口の分布の特色や動態、人口構成や人口転換を考察する。</li> <li>人口問題について、世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。</li> <li>村落と都市について、村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。</li> </ul>
	12	5	4章 生活文化、民族・宗教	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市・居住問題について、世界の都市・居住問題を大観し、その要因と発生のしくみを、発展途上国、先進国、日本の事例で考察するとともに、都市・居住問題の解決には何が必要かを考察する。</li> <li>生活文化について、衣食住を取りあげ、それらの分布や地域的差異と世界的な画一化について考察する。民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察する。</li> </ul>
3 学 期	1	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察する。</li> <li>現代世界の国家について、国境と領域のきまりやさまざまな国家の分類について考察する。</li> </ul>
	2	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>民族・領土問題について、現代世界の民族・領土問題を大観し、日本の民族や領土、世界各地の民族の共生についての課題を考察する。</li> </ul>
	3	1	III部 現代世界の地誌的考察  1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域区分とは何かについて、地域概念や地域区分の目的、意義を理解し、有用性に気づく。</li> <li>地域区分のさまざまなスケールについて、大地域と小地域のスケールによる違いを理解し、有用性に気づく。</li> <li>地誌の考察方法について、地誌的に考察する方法として、多様な事象を項目ごとに整理して考察する方法、特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて考察する方法、対照的又は類似的な性格の二つの地域を比較して考察する方法があることを理解する。</li> </ul>

### 3. 教材

教科書「新詳地理B」初訂版（帝国書院）

地図帳「新詳高等地図」（帝国書院）

最新地理図表 GEO（第一学習社）

### 4. 授業方法及び形態

一斉講義式が中心となる。基本事項をパワーポイントや板書、プリント等を通してまとめたり、地図やグラフ等の作成を実際に行うことによって理解を図る。

科目の性格上、時事問題や国際問題等との関連が深いので、該当する単元では新聞記事やテレビ放送の視聴などを積極的に取り入れる。

### 4. 評価の観点及び評価方法

評価の観点			
関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理	知識・理解
現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的、地誌的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追求する技能を身につけるとともに、追求した過程や結果を適切に表現する	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけている。
評価方法	評価方法	評価方法	評価方法
出席状況、授業態度、課題への取組と提出、ノート・プリントの提出などで評価	授業での発言やその考え方、ノート・プリントの内容や定期考査などで評価	授業での発言や板書、定期考査、課題やノート・プリント、発表学習などで評価	授業での発言や定期考査、課題やノート・プリント、発表学習などで評価

上記の評価の観点を踏まえ次のような配分で総合評価を行う。

知識・理解、表現・処理、思考・判断	関心・意欲・態度	知識・理解、表現・処理 思考・判断
定期テスト	出席状況、授業態度、取組 意欲ノート・宿題等の提出	発表、ノートや提出物の内容
80%～70%		20%～30%